「自分の考えや思いを伝え、判断し、行動できる児童の育成を目指して」

平成 26 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校　黒潮町立上川口小学校

Ⅰ　学校における背景、問題意識

黒潮町立上川口小学校は、海抜 6.1m、海までの直線距離が約 200mの場所に位置し、マグニチュード９の地震が起きた場合、30cm の津波到達時間 24 分、最大浸水深 22mが想定される環境にある。

黒潮町では「一人の犠牲者も出さない」という決意のもと、全町的な取組として、防災に対する環境整備と対策が強力に推し進められている。

そのような中、本校では、平成 26 年度高知県実践的防災教育推進事業の指定を受け、「自分の命は自分で守る」意識と行動力の育成を目指し、保護者や地域と連携しながら避難訓練や防災教育の充実と発展に向けて推進してきた。

Ⅱ　取組のポイント

○各教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動（学級活動）等と防災教育を関連させた学習の実践
○児童自らが主体的に判断し行動できるよう、様々な場面を想定した避難訓練の実施
○保護者・地域と連携した取組の推進
○実態を把握し取組を検証、改善するための防災意識調査の実施

Ⅲ　取組の概要

1　防災教育の目標

○災害から自らの命を守るために必要な知識や態度を育てる。
○自分の命、他者に対する命を大切にし、共に生きる心を育む。
○身近な人々に対する思いやりや感謝の心を育み、たくましく生きる力を養う。

2　具体的な取組

（1）防災学習

系統的な教育が実践されるよう、防災教育の全体計画や年間指導計画を、全面的に見直し整備した。

各教科や道徳、総合的な学習の時間の授業については、防災の視点を取り入れながら、教科領域等のねらいに迫る授業を各学年研究授業として位置付け、指導方法の研究を行った。

また、特別活動（学級活動）の授業については、『高知県安全教育プログラム』に基づいた授業を実践した。

そして、地域で防災対策を推進している方を講師として招聘し、専門的な知見に即した防災学習を行い、幅広い観点からの防災教育を実施した。

上記の学習に取り組むことで、防災に対する認識を深め、「思考力・判断力・表現力・行動力」を育成し、防災に対する適切な意思決定ができるよう、実践的な学びを展開することができた。

《学習実践事例》

①　教科・領域等における授業

【国語科】（１年）平成 26 年 10 月 15 日

◆単元名「わたしのはっけん」

◆単元の目標

身の回りのものの様子をよく見て、気付いたことを文章に書くことができるようにする。

◆防災に関する視点

児童はこれまでに、生活科の校区探検や学級活動での防災学習をしてきたり、毎週実施している様々な場面を想定しての避難訓練や防災参観日等で訓練を積んできたりしてきた。緊急地震速報の報知音が聞こえると、素早く机の下に隠れたり、ヘルメットをかぶって避難場所に避難したりすることができる。

いつどこで起こるかも知れない災害に備えて、校外の危険箇所を知り、危険を予測して避難することや、安全に避難す

ることができるように工夫されていることに気付かせる。

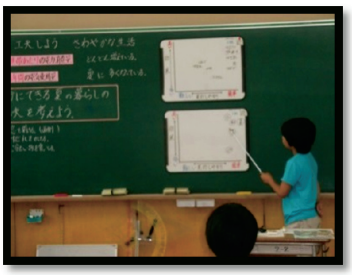
【国語科】（４年） 平成 26 年６月４日
◆単元名「案内係になろう」
◆単元の目標
　相手が知りたいことを考え、必要なことを選んで話すことができるようにする。
◆防災に関する視点
　災害は、いつどこで起きるか分からない。そのため、避難場所や危険場所を案内し合う活動を発展的学習として組み込む。
　また、災害時には、人と人との結び付きがとても大切になる。本単元の「困っている人に案内をする」といった言語活動を通して、身近な人々とのつながりや思いやりの心を育むことをねらいとした。

【道徳】（２年） 平成 26 年６月 18 日
◆主題「命のありがたさ」
◆ねらいと資料
　命の尊さに気付き、大切にしようとする心情を育てる。
　「たんじょう日」３－１（１）命の尊重
◆防災教育との関連
　普段何気なく過ごしている子どもたちであるが、命が誕生してからこれまで、優しい心遣いや深い愛情を受けながら育ってきたことを感じ取らせ、命は尊くかけがえのないものであることに気付かせる。
　また、東日本大震災時に第一陣で支援活動に出向いた保護者の手紙を紹介することで、支援活動を通して感じた命の重さや大切さについても感得させる。
　南海トラフ地震により甚大な災害が想定される中、自他の命を尊く思い大切にすることは、自らの命を守り生き抜く行動をとることの土台であり、地震や津波に遭遇した際の、「津波てんでんこ」の教えにも繋がる心の力や避難行動、その後の人間関係、協力関係の絆を紡ぐ基本であると捉え、防災教育との関連を考えた。

【社会科】（３年） 平成 26 年６月 25 日
◆単元名「わたしたちのまちはどんなまち」
◆単元の目標
　住んでいるまちの地形や土地利用の様子、主な公共施設等の場所と働きを調べる活動を通して、人々の暮らしの様子を捉えることができるようにする。
　まち探検で観察、調べたことをもとに絵地図に表現することができるようにする。
◆防災に関する視点
　町探検を通して、地域の避難場所を知らせる看板や海抜表示を目にすることが多く、子どもたちは、土地の高さや津波の怖さを意識するようになってきた。そこで、本単元では、いつどこで起きるかも知れない災害に備えて、絵地図を見ながら上川口の避難場所や備蓄倉庫等の場所をしっかり確認しておき、防災マップづくりへと繋げていく。

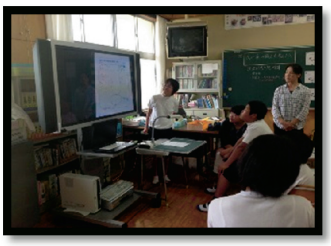
【理科】（５年） 平成 26 年 10 月８日
◆単元名「台風と天気の変化」
◆単元の目標
　天気の変化について興味・関心を持って追究する活動を通して、気象情報を生活に活用する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、天気の変化についての見方や考え方を持つことができるようにする。
◆防災に関する視点
　台風は、毎年のように本県に接近、上陸し、洪水や暴風による家屋の倒壊、浸水、がけ崩れ等、多くの被害を引き起こしてきた。全国でも、同じような被害を受けたり、死者やけが人が多く出たりしている。児童もこれまでの経験から、台風の威力や恐ろしさを少なからず知っている。それを活かしながら、台風の位置や勢力、今後の動き等の情報を収集してそれに備え、安全な生活の仕方を考えさせる。また、情報を的確に収集することや、それを安全な生活や早期避難に繋げることは、地震や津波からの避難とも共通することに気付かせる。

【家庭科】（６年） 平成 26 年７月３日
◆単元名「工夫しよう　さわやかな生活」
◆単元の目標
　暑い季節を気持ちよく過ごすための工夫を考え、生活の中に活かそうとする心情を育てる。
◆防災に関する視点
　児童はこれまで、過去に日本で発生した地震による津波等の映像を見ることで、いざという時の行動について理解を深めてきた。しかし、阪神・淡路大震災や東日本大震災のとき、避難所がどんな状態になっていたのかは想像を超えるところである。夏をさわやかに生活する学習を深めるなかで、電化製品が使えなくなったときの状況を想像させ、被災された方々の避難所での生活の厳しさや、みんなで知恵を出し合い、協力して乗り越えてきたことに気付かせる。



【特別活動（学級活動）】
◆高知県教育委員会策定の『高知県安全教育プログラム』に基づいて各学年、年間５～６時間の防災学習を実践した。

６年「これが大切!我が家の備え」



２年「地域の避難場所を確かめよう」

４年「津波が心配!揺れたら急いで高台へ」

② 講師招聘による防災学習
〈クロスロードを活用した授業〉
日時：平成 26 年７月８日　３・４校時
対象学年：４～６年生
講師：黒潮町産業推進室
　　産業推進係　友永　公生　氏
　　高知県教育委員会安全対策課
　　課長補佐　岡田　直子　氏
〔学習内容〕

1．正常化の偏見について知る。
2．「逃げる」の意味について考える。
3．災害対応ゲーム「クロスロード」について知る。
4．ルールを確認する。
5．練習問題に取り組む。

〈黒潮町の防災の取組を学ぶ授業〉

日時：平成 26 年 11 月 25 日　３校時
対象学年：５・６年生
講師：黒潮町役場情報防災課
　　南海地震対策係　川田　和徳　氏
〔学習内容〕

1．避難空間
2．住民一人ひとりの避難場所の調査
3．応急物資備蓄
4．住宅の耐震化・家具転倒防止の推進
5．自主防災組織の活性化
6．震災前過疎対策（新しい働き場所をつくる）

（２）訓練等の活動（ＰＴＡや地域との連携も含む）

① 避難訓練

○定期的な避難訓練
・体力づくりを兼ねて毎週金曜日を基本として実施
○月１回を基本とした避難訓練
・防災教育参観日や行事等と兼ねて実施

目的：身近に迫ってくる南海トラフ地震を想定し、地震や津波から命を守る方法を理解し、最善の方法で避難する。
想定：始業前、放課後、在校時（授業中休み時間、給食）、校外活動時、下校時等

【４月 24 日　遠足時】

【６月 26 日　給食片付け時】

【11 月 17 日　下校時】

【11 月 28 日　掃除中】

② 引き渡し訓練（防災教育参観日）

日時：平成 26 年５月 25 日（日）
目的：身近に迫っている南海トラフ地震を想定し、地震や津波から命を守る方法を理解して避難し、引き渡し方法を身に付ける。
想定：在校時の授業中（集会：校庭）、震度５の地震を想定（保護者が来るまで学校で保護し、保護者が迎えに来た場合はそれぞれの安全を確認した後に引き渡す）
引き渡し場所：校庭

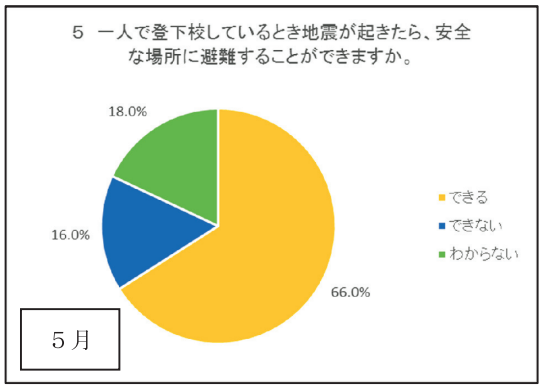
③ 講演会（防災教育参観日）
日時：平成 26 年 5 月 25 日（日）
演題：『東日本大震災から学ぶこと』
講師：黒潮町産業推進室
産業推進係　友永　公生　氏

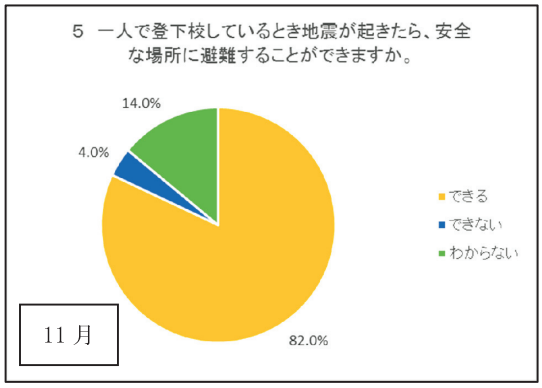
【テント作り体験】

④ 炊き出し訓練（防災教育参観日）
日時：平成 26 年 10 月 28 日（火）
目的：
○防災意識を高め、災害時に備えるとともに、活動を通して自分の役割を果たしながら、集団の一員としての自覚を高め、協力し助け合う心情と態度を育てる。
○地震等の災害後、電気やガス等のライフラインが絶たれた状況を想定し、限られた時間と道具、材料のなかで自分たちで非常用食料を調理することができる。
○自分の考えや思いを伝え、判断し行動できる児童の育成を目指す。
参加者：
全校児童、保護者、開かれた学校づくり推進委員、婦人会、実践的防災教育推進事業連絡会、県教育委員会、町教育委員会、町情報防災課、町補導センター、教職員

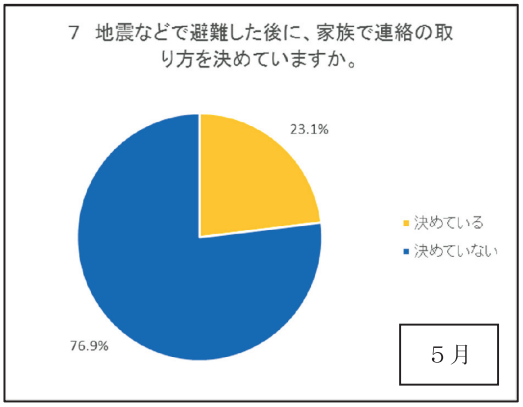
⑤ 講演・救急法講習会
（防災教育参観日）
日時：平成 26 年 10 月 28 日（火）
演題：『東日本大震災に学ぶ』
演習：救急法
講師：日本赤十字社 高知県支部
黒田　文子　氏

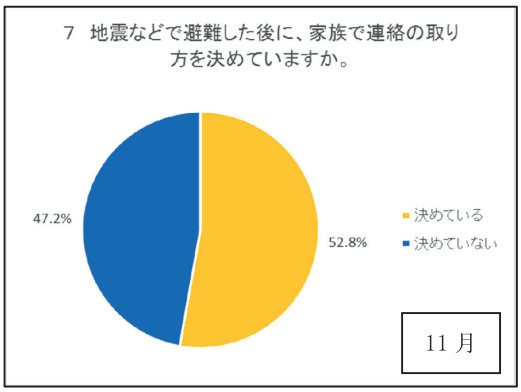
（３）防災意識調査
【児童】





【保護者】





【分析・考察】

○防災学習意識調査を３回実施したが、成果が出ていない項目については、その都度防災教育の実践を振り返り、手立てを考える等、具体的な次へのステップとしてきた。防災学習の知識面では理解が図られ、意識の高まりも感じられる。

●項目によっては、保護者と児童の意識の格差が見られるところもあるので、家庭で十分話し合い、共通理解を図っていく必要も感じられる。

●「地震後の連絡の取り方」については、保護者自身も方法が分かっていない様子も伺われ、まだまだ十分とは言えない結果であった。地域全体で、または社会全体で簡易な方法で確実に連絡が取れる方法を模索する必要もある。

Ⅳ　成果と今後の取組

１　取組の成果

◇教科等の目指す学習のねらいに沿って防災の視点を取り入れた研究授業を実施し、教育課程との関連を研究することができ、日頃の授業実践に活かすことができた。

◇特別活動（学級活動）における防災学習の教材研究を深めることができ、計画的な授業改善に繋がった。

◇避難訓練を繰り返し行うことで（想定を変えた避難訓練実施も含む）、いざというときの避難行動が躊躇無く迅速にとれる子どもが増えた。また、防災意識調査の結果から「１人の時でも避難できる」子どもが増えたことが分かる。

◇避難行動に時間がかかる児童へ励ましの声が聞かれる等、友だちや下級生を思いやる言動が見られた。

◇炊き出し訓練や下校時避難訓練においては、保護者や開かれた学校づくり推進委員、区長さん、婦人会、行政等の関係機関の方々に、準備や街頭指導等で積極的に協力していただいた。

◇防災学習に対する児童の意識は、全項目で変容が見られ、意識の向上が図られている。これまでの防災学習の成果を感じることができる。

◇学習したことを家庭で伝えることにより、家族全体への波及も感じられる結果となっている。子どもたちの意識の変容が家族の意識の変容に繋がっている側面も感じられる。

２　今後に向けて

◆『黒潮町津波防災プログラム』に基づいた系統的な防災学習も実施していく。

◆地域との連携においては、実施する活動の内容の深化及び発展に基づいて、より意義のある関わり方をともに考え提案していく必要がある。

◆保護者の学校における防災教育への必要感と期待感は大きい。自らの命を守りきることができる児童の育成を目指し、全教育活動を通して更なる研究と実践に取り組む必要がある。